

議 長	<p>それでは、会議を再開を致します。 (午後0時57分) 植田議員の一般質問を行います。3番植田議員。</p>
3番 植田議員	<p>それでは、通告書に従い質問を行います。</p> <p>本町の島根中央高校に対する支援策、及び各公共交通機関への支援策などについてであります。本年度、高校支援の各施策に対し総額約2,400万円、公共交通機関支援の各施策に対し総額約900万円の予算が組まれております。各施策の内容を見ますと、高校支援としては、スクールバスの運行、通学用定期券への補助、寮費などの通学支援、部活動支援、高校支援コーディネーターの雇用などが挙げられ、公共交通機関への支援としては、石見交通の大田川本線の赤字補填、邑南バスの共同運行、三江線活性化協議会への拠出金等が挙げられます。これらの施策は、過疎化・少子高齢化の潮流の中で、全国的にも見られるものであり、本町の現状を見れば、短期的には必要であろうと考えております。交通手段や高等学校はいうまでもなく本町にとって大切なものであり、これらが無くなれば更なる人口減少を招き、税収の減少から住民サービスの低下も心配されます。何よりこれらが無くなる事で、町民がこの町で生きる気力が減退する事を私は危惧しております。本来、町の施策とは町民の生活向上のために実施されるべきものであります。よって、これらの施策を行っていくのは、町の使命にも適ったものと考えております。</p> <p>しかしながら、2009年より日本の総人口は減少に転じ、もはや人口減少は本町だけの問題ではなく、自然の流れであると言えます。この流れに徒に逆らう事は、とてつもない労力であり、多くの時間とコストが必要です。短期的な視点に立った施策をモグラ叩きのように行っているのは、本町でも現状の支援策を継続する事に何れ限界がやってくると考えます。過疎・少子高齢社会を前提とした、公共交通機関のあるべき姿、高等学校、及び高等学校支援のあるべき姿など、町の未来像を明確に描き、これに沿った中期的・長期的な視点に立った施策を実施していく必要性を強く感じますが、町長のお考えをお聞きしたいと思います。以上、具体的かつ明確な答弁を求めたいと思います。よろしくお願い致します。</p>
議 長	<p>それでは、植田議員の「町の行っている各支援施策について問う」に対する答弁をお願い致します。番外三宅町長。</p>
番外 三宅町長	<p>それでは、植田議員のご質問にお答え致します。</p> <p>本町におきます現在の道しるべ、これは向こう10年を見据えて昨年度策定致しました第5次総合計画でございます。将来の姿を実現するために、「医療福祉の充実」、「雇用の場の確保」、「居住空間の整備」、「子供教育の充実」、この4本柱を掲げまして、必要な施策を産業振興、基盤整備、生活環境、保健・福祉・医療、教育・文化、集落・協働の6つの体系化で、重点的に取り</p>

番外  
三宅町長

組んでいるところでございます。中でも目標実現の為、特に重きを置く24の事項を重点項目として定めまして、特に取り組みを強化しております。この項目につきましては、具体的な成果指標を示しまして、所謂PDCAのサイクルにより、取り組み評価をしているところでございます。今年度から新たな予算を投入して展開しておりますこの取り組みにつきましては、来年度の本議会にて評価を報告させていただく事しております。このように本町におきましては、まさしく総合計画そのものが将来像でありまして、これに基づきまして様々な事業を有機的に連携させ、スピード感を持って、町民と一体となって取り組んでいくことが不可欠であるというふうを考えております。これを実効的に推進していくためには、町の未来像を明確に描き、中期的・長期的な視点に立って施策を展開していくことが必要、とのご指摘はまさにそのとおりであると考えております。過疎地域が抱えます課題を先取りしております本町は、議員ご指摘の、高校支援や地域公共交通対策をはじめとする諸課題解決に向けて、全力で取り組んでいかねばならないと考えております。そして事業がその場の適にならないように対極的視点に立ちまして、優先順位を付け、安全安心、そして活力のある町づくりを進めていきたいというふうと考えております。

議 長

ただいまの答弁に対しまして再質問ございますか。3番植田議員。

3番  
植田議員

私がこの質問を取り上げましたのは、確かに今、町長が仰いましたように第5次の総合計画により中期的な目標は出来ていると思っております。問題なのは平成33年が終わった後、そこから始まる長期的なところが私は非常に不安を覚えています。何故かと言いますと、子どもを産める世代が少ない、ですから人口が増えていくことはなかなか難しい。お年寄りはどんどん亡くなって行って自然減が発生していく。そういう中で明らかに人口減少はこの町を襲ってくると考えております。そうなった時に人口が減少するという事は税収も減ってくるという事でございます。交付税も減ってくる可能性が高いと思います。そうなった時に、如何に効率良くこの町を作っていく事が出ておるかという事が問題になってくると思います。住民の方々はこの住み慣れた川本町で暮らしていきたいという気持ち、今、住んでいる場所で暮らしていきたいという気持ちが非常に強いと思っております。その為にも長期的10年以後ですね、如何に効率良くこの町を運営していくかという事を今から考えておかないと、又それに耐えられる仕組みインフラを作っておかないと、この町で暮らせないという事になると考えたから敢えてこの質問をさせていただきました。今、第5次の総合計画、それに沿って町長やっていくんだという事を言われました。確かに「医・職・住・学」、項目が出ていろいろ施策が出ていますけれども、ただ効果が望めるなどと思う施策が未だ私には見えておりません。例えば医療にしましたらドクターカーの購入がどうも決まっています、それによる訪問医療の充実という事で無

3 番

植田議員

医地区に対するサービス向上、これは叶っていると思いますけれども。

次に「職」ですが、新たな職場の創出を考えていかないとU I ターンを促す事が出来ないんじゃないかと思っております。U I ターンで若い方にこの町に帰っていただく、来ていただかないと、やはり子どもを産める世代が来ていただかないと子どもが増えて人口が増えていかないという事だと思えます。同時に年配の方も来ていただければ一石二鳥な訳ですけれども。先ずここで新たな職場が未だ創出にまでとてもいっていない。

それから「住」のところですが、質の高い住宅の提供で大規模改修によるものという答弁がありましたけれども、やはり石川議員、今朝方の一般質問にありましたように、新しい住宅を造っていかないと八幡平団地30年以上経った物を大改修しても、なかなか若い人のニーズに沿ったものには出来にくいんじゃないかなという気も致します。

それから「学」ですが、小中一貫校による教育の実施と、あると思います。それから中央高校の魅力化等あると思います。一貫校に関しては教育長、未だ10年くらい係るんじゃないかという事がありましたけれども、町長の方から政治的配慮でスピード化すると早めるという事でありました。それが必要になってくると思いますけれども、未だ本当に検討段階等々が多くて未だ本当に施策として私には見えないのが本当じゃないかという気がしております。もっと段階を踏んできちんとした行程を考えていかなくちゃならないと思っておりますが、その辺、まちづくり推進課長、どのように考えておられますか。

議 長

番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野  
まちづくり  
推進課長

今いろいろとご指摘いただきました。確かにごもっともというところが多々あると思っております。

昨年度、この役場の職員が中心となって第5次の総合計画を職員の力を結集して作り上げたところでございます。向こう10年、先を見据えた長期にたつてという事がございましたが、10年後を見据えてその時の人口規模などにしても、人口規模というか1クラスの数がこのぐらい居て欲しい、高齢化率もこのぐらいになって欲しいというところを見据えながら、そうした時に3,300という数字を出し、そこに至る為には「医・職・住・学」など、こういった施策を総合的にしないといけないというところで作り上げたところでございます。それでご指摘があったようにそれぞれの具体的な事業については、まだまだそれに全て出ているかというところとそうでないところはあると思っておりまして、各関係するところみんなで力を合わせていかないといけないと思っております。

まちづくり推進課の方で担当しているところで、例えば先ほど例にもありました高校支援と言いますか、魅力化という形で取り組んでおりますが、これらにしても当面は生徒確保というところですが、その為にも魅力の溢れる学校になって欲しいという事で全面的に支援をする事として進めておりま

番外左田野  
まちづくり  
推進課長 すし、そういったところでそれぞれ施策が総合的に動けるように、これから  
もいろんな課と調整しながら頑張っていかなといけんあ、と思っております。

議 長 再質問ありますか。3番植田議員。

3番  
植田議員 それでは、高校支援について1つ2つお尋ね致したいと思います。中央高  
校の、この町にとっての必要性は通告書でも述べたとおりであります。邑  
南町にとりましても矢上高校の存在は同様であると思っております。それで  
ですね、邑智郡内の高校へ入学する生徒数は今後約200名、約200名と  
いう事であったはずです。この事を踏まえて郡内にとってあるべき高校の姿  
は、どのようなものが理想であると考えておられますか。まちづくり推進課  
長、教育課長、お答えをいただきたいと思っております。

議 長 番外杉本教育課長。

番外杉本教  
育課長 ご指摘の邑智郡にとっての高校の在り方という部分でございますが、もち  
ろん高等学校という学校につきましては、その学校の持つ教育の水準である  
とか向上であるとか、そういったものが当然必要になってくる。それとこう  
いった少子化の進む邑智郡に執りましては、学校規模の確保というものがご  
指摘のとおり非常に大切なところであろうと思っております。そういった中  
で先ほど、まちづくり推進課長の方から報告がありましたように、これは高  
校の魅力化というものを進めていかなければならないということが1点あ  
ろうかと思っております。ここの高校の在り方の魅力化の進め方という部分  
については、地域を巻き込んだ取り組み。特に島根中央高校におきましては  
町ごとキャンパスというような場所も確保しながら、そういった魅力化に取  
り組んでおるといふところであると思っております。

一方、教育課におきまして、こういったところをどう繋げていくかとい  
うところでございますが、先ほども議員のお言葉にありましたように小中一貫  
教育というものを進めていこうという所存であります。正しくこれから始ま  
るところでございますので、これから調査・研究をしていくところござい  
ますが、小中一貫といふところにあっても、ここにはきちんと高校に繋げて  
いくといったところを着目して、そういった研究もしていきたいといふ  
ふうに思っております。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野  
まちづくり  
推進課長 まちづくり推進課としましては教育サイドほどではないのですが、県の高  
校であります高校がより魅力的であり、地域の子供達が是非、地元の高校に  
進んでいただけるよう、又、議員先ほどお話しされましたが郡内の子ども

番外左田野  
まちづくり  
推進課長

数、川本中学校も当然なんですけど郡内全体としても中学校が卒業する子どもの数が減っております。そういった子供達が是非地元に残っていただけるように魅力溢れる学校になっていただくよう支援していきたいと思っております。高校が魅力的であって、その中で今回いろいろな形で高校の先生方と生徒募集で歩かせていただいた中でも感じるの、高校の先生方も、それぞれの子供が持っている夢を是非ここで実現出来る学校にしたいという思いを持って下さっております。その為には、いろいろ例えば子供達も就職を希望する子どもの或いは上の大学等を目指していく子もおります。そういった子供達も対応出来る為にも、やはり先生の数が今より減らない、学級数も減らずにいろいろな子供達の夢が実現する可能性が残るように、今の規模が保てるように推進課としても応援していきたいというふうに考えています。

議 長

はい、3番植田議員。

3番  
植田議員

今、課長から答弁をいただきましたけれども入学者数が約200人に、ちょっと足りないはず。その邑智郡の子供が全員入れる器を持った学校は島根中央高校の校舎であります。しかしながら先ほど言いましたように、邑南町にとりましても矢上高校は我が町と同じように非常に大切な学校であるとも思っております。しかしながら今、課長が言われましたように、質の高い教育をこの郡内で受けさせる為にはある程度の規模を持たせなくてはならないはず。教員の数が専門の教員が置けないとか、いろいろ支障があるはず。そうしますとやはり将来的には、又、高校再編が行われるんじゃないかという気がしてなりません。川本高校・邑智高校の再編があって、今、島根中央高校が出来た訳ですけども、その時、私達、非常に反省しなくちゃいかん事が多々あったと思います。今その時の凝りで未だに中央高校の生徒が集めにくいと集まりにくいという現象も起きております。その時の反省にたつて今後の再編を見越して動くのであれば、両校の良い所を残す、つまり普通科と矢上高校の産業技術科を残さなくてはならないと思います。その為にはキャンパス方式を考える必要があるんじゃないかという気も致します。それから邑智郡内の子供達を全部引き受ける学校にする為には「特進クラス」の開設等も必要じゃないかと思っております。そうでないと高い志を持った子は、どうしても郡外へ出て行きます。工業高校・水産高校等へどうしても行きたい生徒が流れるのは、これは致し方ない事と思いますが、それ以外の生徒をこの郡内で食い止めるという学校を作る事が、郡内の子供達にとって一番、私は素晴らしい学校だと思っております。その為にはやはり将来を見据えて町長には他町と連携致しまして、こういう高校がこの邑智郡には必要であるというような活動を県教委の方にしていっていただきたいと思っておりますが、その辺は町長どうですか。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長 高校は川本にとりましても、そして邑南町にとりましても大切な大切な学校でございます。今、議員が仰いました将来このそれぞれの学校の機能を生かしながら、どっちかという両方が残るような方策を考えていきなさいというご意見であります。将来を見据えて大変貴重なご意見というふうに受け止めました。そういう中でございますので私の中にそれを置きながら機会がありましたら、こういう話もそういう場においてさせていただきたいというふうに考えております。それから今、何といても島根中央高校は1つ手前で来年度の入学者81名、これを確保して1学年3クラスを維持していこうというのが命題として関係者が取り組んでいるところでございます。当面この来年度のそうしたところに全力で応援していきたいというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。3番植田議員。

3番  
植田議員 実は私は選挙の公約に中央高校に対する支援を挙げております。短期・中期的には絶大なる支援を行っていかなくてはならないと考えております。よろしくお願ひしたいと思っております。

次に、交通機関に対する事ですけども、三江線の増便社会実験により潜在的需要はないと判断されております。赤字路線でもありますし、将来的には廃線になる可能性が高いかも知れません。まして今度の災害で鉄橋のピア（橋脚などの意）が倒れたという事で早まる事を危惧しておりましたけども、9月9日の県知事はじめ三宅町長はじめ各町村首長さんによるJR西日本への陳情で復旧を早くして下さいという陳情をされておりますけれども、その回答が県・市町村と連携して復旧させたいというふうにJR西日本の方から返答があったというふうに新聞に出ておりました。連携してと言うところにちょっと引っ掛かりまして、要は工事費の連携かなというような気もした訳ですけども。やはりこれも今、短期・中期的には絶対に無くってはならない交通機関です。そういう事も覚悟してでもこの復旧を早めていただきたいと思ひます。ただ本当に長期的に考えましたら、このJR三江線、このJR西日本、民間会社です。いつまでも赤字を引きずっていくという事は、やはり企業としていけない事であり、どこかで廃線になる事は我々は想定をしておかなくてはならないと思ひます。その為には将来に備えた交通体系の構築も考えておかなくてはならないような気がしております。その時の為だけでなく、中期的にも各町営バスの連携が今よりももっと必要じゃないかと思ひますし、デマンドタクシーの拡充、スクールバスの小型車の導入と路線の再興が必要じゃないかと私は考えておりますが、左田野課長どうですか。

議 長 番外左田野まちづくり推進課長。

番外左田野 ご質問のありました中で三江線の復旧につきましては、先般、町長を含め

まちづくり  
推進課長

知事も行かれてJRの方から前向きに取り組むというような趣旨でご回答があったように聞いております。ただこれにつきましても先ほどありましたように現場の様子とかいろいろあると思いますので、これから議論だとは思っております。それと長期的・短期的にも、その町の交通体系なりを考える必要があるという事でごさいます、確かにそういう必要性はあると思っております。今般デマンド交通、デマンドバスを走らせておりますが、スクールバスとの組み合わせを上手く調整であるとか、いろいろな問題点が生じてきているとは認識をしております。それを含めて現在、町の公共交通の在り方を計画を策定中のごさいますので、その中で一定程度、方針を出して是正できるところは是正するような事も考えて、そういった意見を参考にして考えていきたいと思っております。ただスクールバスにつきましては教育委員会サイドともありますし、子どもの通学時間については今も満員の状態があったりしますので、そういったところはきちんと調整しながら皆さんの子どもさんの不便にならないように、又、町全体の皆さんが交通手段が確保出来るような事を考えながら考えていきたいと思っております。あと町村間を結ぶバスにつきましては1町だけでは考えられない事がありますし、他町を結ぶ部分がありますので、これについてもご意見を参考にさせていただきながらいろいろと関係者と考えながら進めていきたいと思っております。

議 長

再質問ありますか。3番植田議員。

3番  
植田議員

交通機関に関しましては、これでおきます。

次、産業振興課の所管事業に対して質問致します。先ず農業に関する事ですけれども、うちの町の農業、前回の一般質問で言いましたけども数人の方が専業としてやって居られ経営が成り立っているのが現状じゃないかと思っております。又他町と比べ農地経営規模が小さいために量での競走は出来ないんじゃないかとも思っております。その為にいろんな方法を考えていかなくちゃならんと思っておりますけれども、先ず町長、6次産業化という事を言われておりますが、何か6次産業化、6次産業を進めると言っておられるだけでは俗にいう農業振興を諮りますと言っているのと大差ないんじゃないかと思っております。もっと踏み込んだ考え方なり方法を考えておられないか聞きたいと思っております。

議 長

番外三宅町長。

番外  
三宅町長

6次産業化の基本は生産者を安定的に増やして、農産物が生産されるというのは底辺にあります。それで今ありましたように川本町生産者というのは小規模のごさいます、生産者がこの付加価値を付けて6次産業化に取り組むというのはなかなか難しゅうございます。従いまして川本町の場合、今考えておりますのは、川本町全体として、この生産者が作った物を加工業者

番外  
三宅町長 に出荷すると。加工業者が大きく付加価値を付けて販売するという事で町内全体を通して、この6次産業化のシステムを作っていこうというところで今、考えているところでございます。

議 長 はい、再質問ありますか。3番植田議員。

3番  
植田議員 加工業者の方へ要は出荷して加工して、それを販売していくと。要は契約栽培に近いものかなという事を今、思いましたけれども。やはり農家としては契約栽培なら少しは販売先が安定していますので、良いかなと思いますけれども、やはり本当に規模が小さいんですよね、うちの町の農家っていうのは。その為に量では、やはり勝負出来ない。それじゃどうするかって言ったら付加価値の高い物を作る。じゃあ付加価値の高い物は何だっていう事になりましたら、もう勝負出来るのは、うちの町の農産物は安全ですよという事しか私はないんじゃないかっていうような気がします。その物を直売をしていく例えば道の駅で直売をしていく。それから町内の弓市町内の店で販売していく。それに依って間があまり入りませんので、農家にとっては高く出荷できて、それから販売店にとったら経路が少ない分だけ安く売れる、町民は安く買えるっていうのが3者、みんなが得をするっていう事じゃないかと思えます。そういうルートを行政として作っていくのも難しい事だけでも、考えように依っては出来るんじゃないかっていう気もします。それから個々の農家が加工して販売していくっていう事も必要になってくるんじゃないかと思えますが、先程から言いますようにあまりにも規模が小さい為に加工場を個々の農家が持つっていう事も大変な事だと思います。じゃあ共同使用の加工場を行政として構えるというような事も1つの方法だと思いますが、私どれぐらいの設備があるのかっていう事を分からんのですけども、そんなにごつく掛かるもんじゃない気がします産業振興課長、施策として考える事は出来ないですか。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産  
業振興課長 言われましたとおり正に生産者が所得の向上、これが一番だろうと思えます。それで小さな農家、或いは家庭菜園を含めて、そういった所が年間でも少しでも上がっていく、こういった政策を組むべきだろうと思えます。その中に先ほど言われましたように加工場の問題、家庭で作って今出しておられる方も実際にはおられます。そういった規模が2、3人でも集まって出来る程度のもの、というのは十分可能ではないかと思えます。そこら辺、実際にどれぐらいの制約があつてという事は未だ分かりませんが、そういう事は十分これから取り入れていける事は可能だと考えております。

議 長 3番植田議員。

3番  
植田議員 先ずうちの町では、やはり最初言いましたように本当に経営が成り立っている農家の方が少ない。これから新規の就農者の方を求めていくには、やはり少しでも収入になるっていう事を見せてあげないと、私はあくまでもいつまでたっても家庭菜園で終わっていくんじゃないかと思います。やっぱり家庭菜園だけでは、その農業振興っていう事にはならないと思います。先ず、少しでも収入になっていくんだと、年金の足しになるんだというような農業からスタートしていかなくちゃならんのがうちの町の現状だと思います。その為にもやはり課長、これから先そういう小規模農家を多くしていかななくちゃならんのが現状だと思いますので、そういう施策もしっかりと考えていって下さい。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長 仰るとおり非常にそこら辺は痛感しております。うちにはせっかく農業公社というのがありますので、そこに専門職員がおります。各家庭なり生産者に向かっていろんな技術、或いは栽培の方法、それから栽培の時期等を情報提供をしながら少しでも収益に上がるような方策というのを取っていきたいと思っております。

議 長 3番植田議員。

3番  
植田議員 これで農業の方は、おきたいと思います。  
次に、商業の方へ移りたいと思います。商業と言いましても、主に弓市商店の活性化でありますけども、商業の町の復活はなかなか難しい課題であると思っております。しかし弓市の商店会の活性化がなくては、この弓市地区に町民が住み続ける事が出来なくなってくると思っております。今、弓市商店会の方へ告知放送の無料使用をさせておられますけれども、その他に弓市商店会の活性化に対して何か施策を考えておられる事がありますか。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長 弓市商店会、特に商工につきましては商工会の方で一生懸命やっておられる部分もあります。今、加藤病院等を使って注文を取った電子・・・ちょっと言葉を忘れましたがサイネージ何とかという事で、商店街の方が販売ルートを広げていこうという取り組みもされております。こういったところにも町の方の職員も関わりながら、出来る支援はやっていく予定にしております。

議 長 3番植田議員。

3番 今のその加藤病院と連携した、要は注文をそこからでも受けられるような

植田議員 システムを作るといふ事だと思ひますけれども。昨年度、その前ですかね、ドリームかもんさんの方へ委託事業でそういうシステムの実験があつたと思ひます。結果としては私は散々たるものであつたやうな気がしてあります。なかなか難しいと思ひますけれども、しかし今後、高齢化がどんどん進んでいつてくる中で、どうしても人間住み慣れた所で住みたいといふのが本音です。しかし車に乗って買い物に行く事もなかなか難しいといふやうな事が必ず出てくると思ひます。その為にもそういうシステムは、今の内に構築しておかなくちゃあならんと思ひてあります。それでも未だ足りない部分、例えば告知放送を利用してでもそういう事が出来るやうなシステムを商工会等と考へていくやうな事は必要じゃないかと思ひますが、どうでしょうか。

議 長 番外谷川産業振興課長。

番外谷川産業振興課長 その告知放送をどう使つていくかといふところは、ちょっと今アイディアが浮かびませんので回答が出来かねますが、先ほどの高齢者に対する買い物支援と言ひますか、といふ事で今年一度検討した部分としましては、移動販売あわせて注文を受けた物を配達すると。それと兼ねて生産物の集荷といふ事はどうだろうかといふ一度は検討しましたが、ちょっとなかなか進まない部分もあります。そういった部分も含めて高齢者全域に対する支援といふのはやつていくべきではないかなと思ひてあります。

議 長 3番植田議員。

3番植田議員 今、課長、移動販売つて言われましたけれども、正しく私もこの事を考へてあります。交通弱者・買い物弱者、周辺だけではありません。あちこちで今後、出てくるものと思ひてあります。やはり住み慣れた所で住み続けていつていただく為には、この買い物つていふ事も重要な要素だと思ひます。行政が移動販売車を購入して商協なりに委託をして巡回で販売して歩くつていふ事が必要な時代が、もう私はそこまで来ているんじゃないかと思ひてあります。長期的にはこゝうな事も考へていつていただきたい。これで商店会につても終わります。

あの議会の方で研修を考へておりましたところ、まちづくり推進課・教育課の方から合同でやつて欲しいといふ事があつたと思ひます。まちづくり推進課の方からは津野町、情報通信機器を活用した見守りネットワークを視察したいといふ事だつたと思ひます。うちの光通信を利用した事に繋がつていつて、効率よい住みやすい町になれば良いと思ひます。是非ともしっかりと勉強して今後に役立てていつて下さい。それから教育委員会さん、<sup>ゆずはらちやう</sup>禱原町の小中一貫校、これはずっと私が行きたい行きたいつて言つてた所なんですけれども、一緒に参加して下さるそうです。しっかりと見させていつていただいて本当にこの一貫校といふのが良いものか、悪いものか、定めたいと思ひてお

3番  
植田議員

ります。どうか一緒に勉強して、もし良いものであればスピードアップして進めていっていただきたいと思います。

それから執行部の方をお願いしたい事が1つあります。お金の使い方についてであります。うちの町の財政は平成16年よりは好転したとは思っておりますが、確かに基金は増えました。しかし硬直化した財政状況は、そう変わってはおりません。自由に使えるお金5%有るか無いかです。その中で如何に小さいお金を大きく使うか、大きいものに使うかっていう事を我々は真剣に考えていかななくてはならないと思います。例えば辺地債を利用致しまして1,000万円の事業をするにあたりましては、町の持ち出しは200万円です。過疎債を使いますと同じ1,000万円の事業に対して300万円です。県より補助事業に認定していただいて、町の負担分を又、過疎債を使いますと町の実質持ち出しは90万円です。又、県の事業の負担金として使いました時には150万あれば1,000万円の仕事をしていただけるという事になります。今後、我々は本当に人口減に備えてそれまでにそれに耐えうる効率よいインフラを作っておかなくてはなりません。ですから本当に優先順位をしっかりと立てて、大事な財源を大きく使っていっていただきたい、そういう施策を持っていただきたい、と思います。

以上で私の一般質問は終わります。

議 長

これをもちまして、植田議員の一般質問を終了致します。

々

以上をもちまして、本日の本会議の議事日程はすべて終了致しました。

々

長時間にわたりお疲れ様でございました。

(午後 1時43分)

この会議録は、川本町議会事務局長 宇山 廣 繁 が記載したもので、その内容において、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員